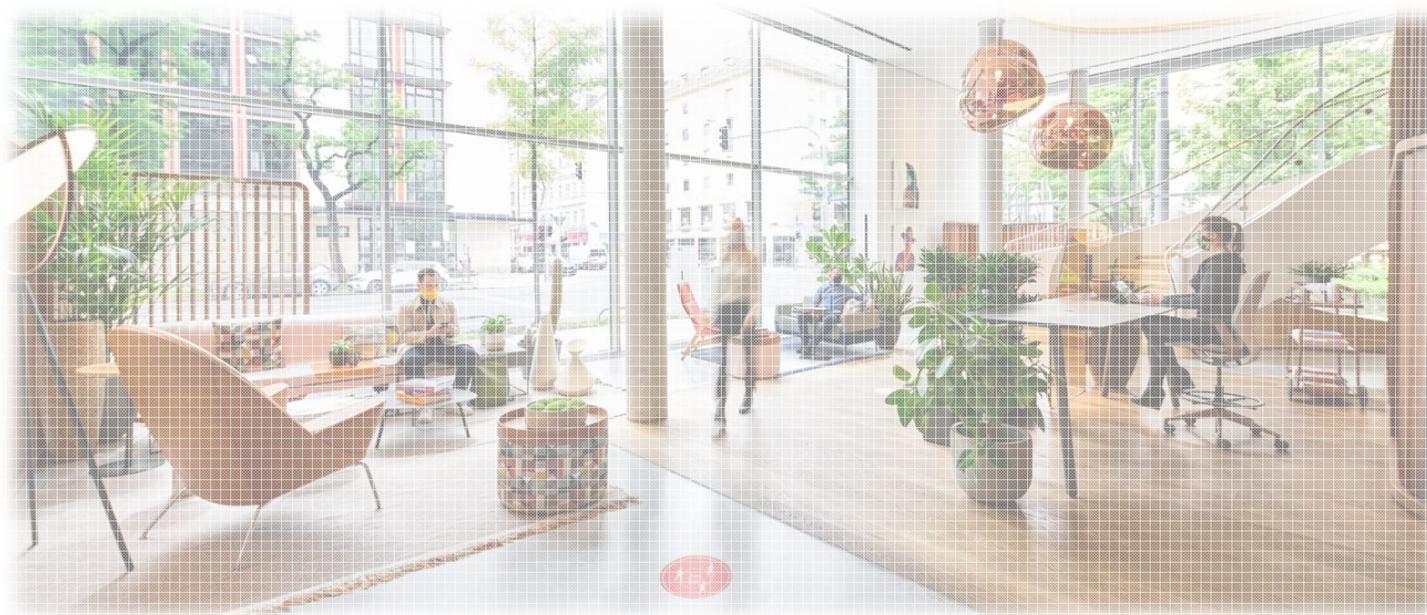


ポストコロナ オフィス環境の見直し

柔軟な働き方へシフトするオフィスの役割



ポストコロナに向けたオフィス環境の見直し

長期化するコロナ禍の中で、一時的なテレワークや飛沫対策で凌いできたオフィスは、様々なワークスタイルに追従できずスペースや時間など大きな無駄を生んでいます。

ポストコロナ時代へ向け、オフィス環境そのものから見直し、柔軟な働き方へシフトする必要が出てきています。

目次

| | |
|---|---------|
| 柔軟な働き方へシフトするオフィスの役割 | P.1 |
| 既存オフィスの見直し | |
| 1. 《既存家具、設備を流用したコスト重視縮小》 | P.2-P.3 |
| 2. 《オフィスのエンゲージメント向上型縮小》 | P.4-P.5 |
| 3. 《スペースを変えずにソーシャルディスタンスを取るコラボレーションオフィスへの見直し》 | P.6-P.7 |
| サテライトオフィス | |
| 4. 《サブヘッドオフィスのサテライトオフィス》 | P.8 |
| 5. 《遠隔地サテライトオフィス》 | P.9 |

柔軟な働き方へシフトするオフィスの役割

オフィス面積の適正化

新型コロナウイルス感染防止のため、各企業もICT環境の進化と共にテレワークや在宅勤務の本格導入が始まり、このことで以前の働き方改革とは違う新たな働き方として変化し、それに伴いオフィスの在り方、面積を見直す必要があります。

オフィス機能の見直し

テレワーク、在宅勤務が実現されることにより、対面でのコミュニケーション不足になり、結果的に組織の一体化、エンゲージメントの低下が課題となっております。
これらの新たな働き方の変化に適したオフィス、エンゲージメントの低下を抑止するオフィス機能の見直す必要があります。

具 体 案

- 《既存家具、設備を流用したコスト重視縮小》
- 《オフィスのエンゲージメント向上型縮小》
- 《スペースを変えずにソーシャルディスタンスを取るコラボレーションオフィスへの見直し》
- 《サブヘッドオフィスのサテライトオフィス》
- 《遠隔地サテライトオフィス》

これらのオフィスは「テレワークを含む柔軟な働き方」を実現させ「社員個々の能力をアップ」「エンゲージメントを向上」が可能となり企業の成長につなげるご提案をさせていただきます。

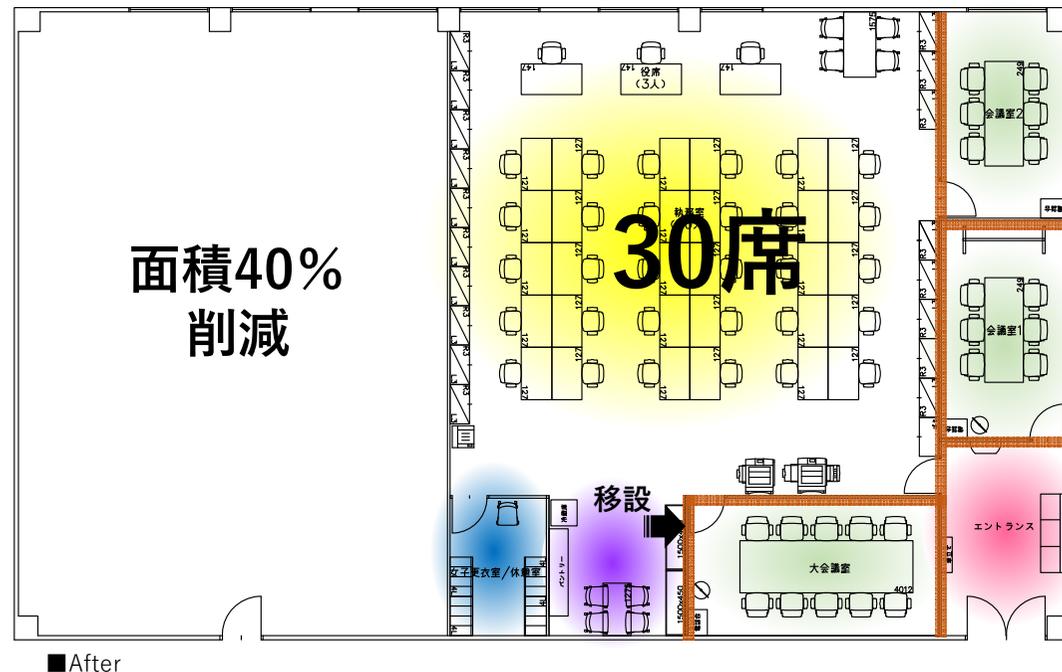
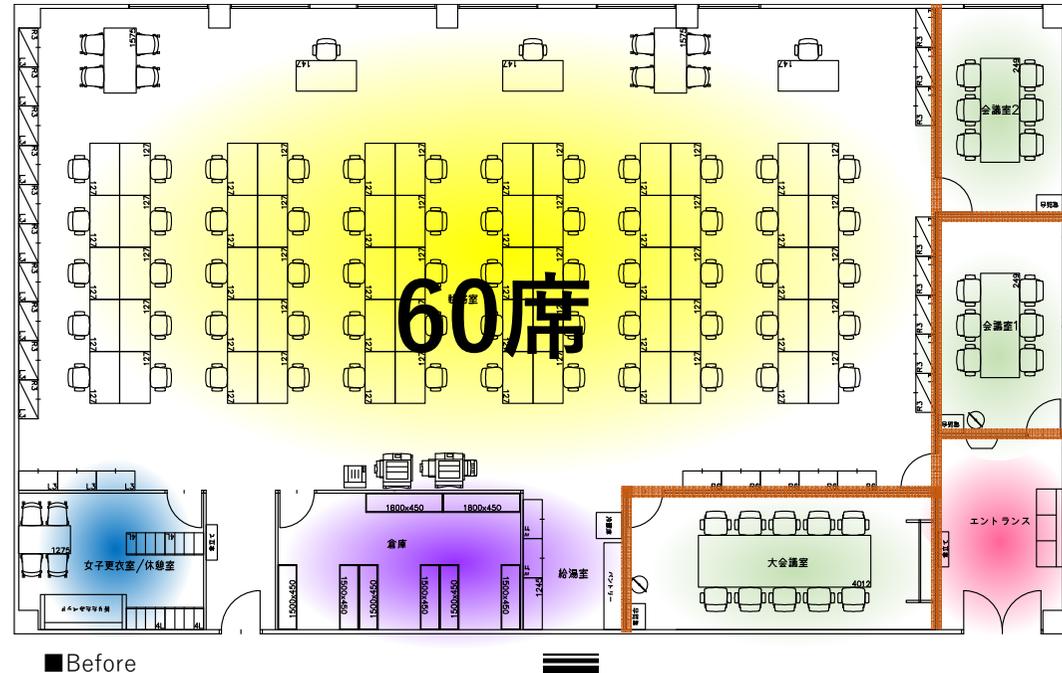
1.既存家具、設備を流用したコスト重視縮小

Problem

現状のオフィスを縮小し
既存什器を活用するコスト重視プラン

Type Check☑

- ☑コストを抑えたい。
- ☑今ある機能は現状を維持したい。
- ☑席数は現状の50%程度。
- ☑家具は流用。設備も出来るだけ動かしたくない。



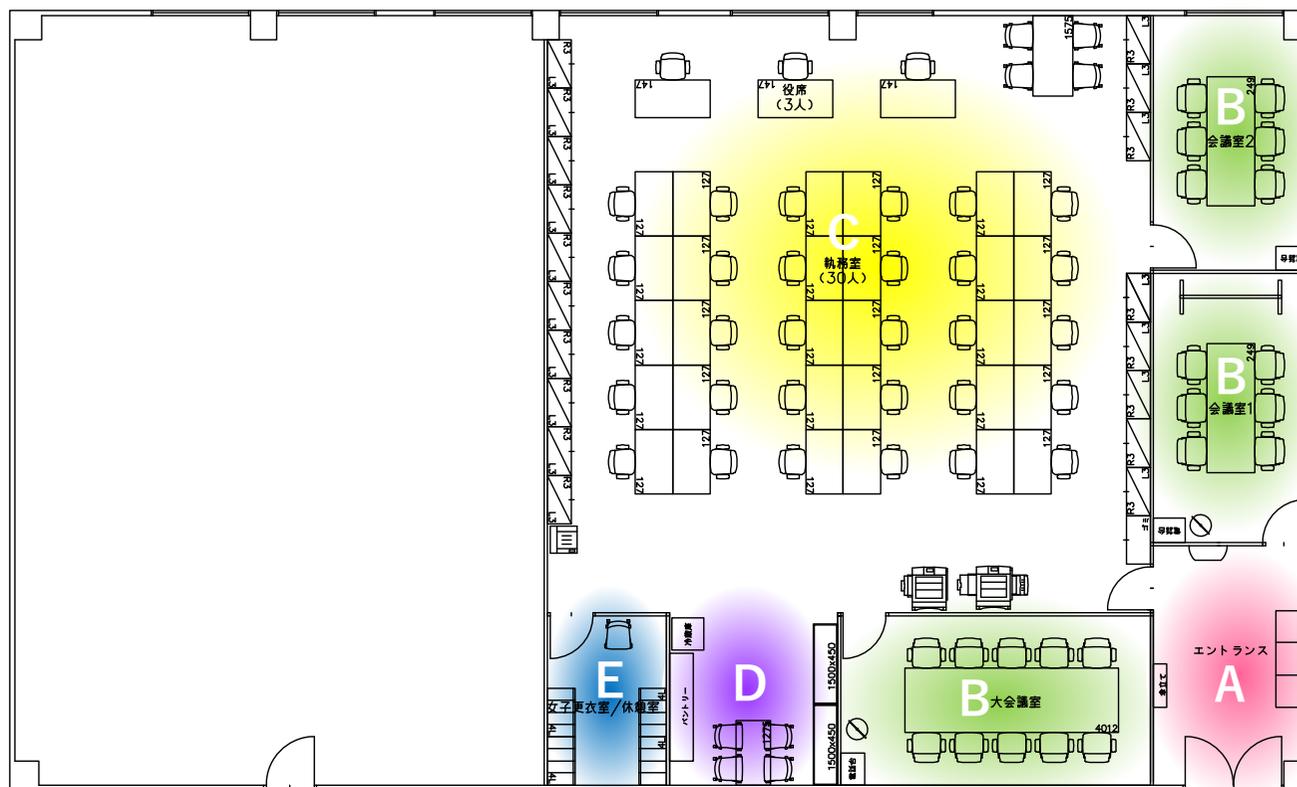
- A エントランス
 - B 会議室
 - C 執務室
 - D パントリー・倉庫
 - E 更衣室
- 間仕切り流用箇所

Solution

現状のオフィスを縮小し
既存什器を活用するコスト重視プラン

- ①現状の機能や用途はそのままだ。
- ②間仕切り位置を極力変更せずに、
- ③工事費用を抑えたレイアウトプランです。
- ④面積を約4割削減する事で利用人数を半分に減らす事が可能です。

- ・面積：345㎡→203㎡
- ・ワークポイント：63→33（役席3席を含む）



■After

A エントランス

- 現状と同じエリアにする事で工事費用が発生せず、コスト重視のプランが実現できます。

B 会議室

- 会議室の数は変更せず、来客スペースやWE B会議室として利用します。

C 執務室

- 在宅勤務やリモートワークを実施する事で、出勤率を50パーセントの運用が可能です。

D パントリー・棚

- パントリーや物品棚は必要最低限の面積で機能を維持します。

E 女子更衣室

- 収容人数は現状維持しており、更衣室が不要な場合はミーティング室や倉庫に変更可能です。

【オフィス縮小のメリット（*既存縮小の場合）】

- ①コスト削減
賃料、光熱費、通勤交通費等の削減
- ②在宅勤務やリモートワークの促進
- ③ペーパーレス化の促進

【オフィス縮小のデメリット（*既存縮小の場合）】

- ①ソーシャルディスタンスをとる事が難しく対策が必要
→💡スクリーンやパネルの設置
- ②Face to face等のやり取りが減り、コミュニケーション不足が発生
→💡個や2人で作業する場所や什器のセッティング
- ③現状の機能や用途を縮小している為、A B Wを行い辛い
→💡コミュニケーションを促進する家具のセッティング
- ④自社ビル等の場合、不動産価値の下落・テナントの減少
→💡コワーキングスペースやサテライトオフィスとして活用する



2. オフィスのエンゲージメント向上型縮小

Problem

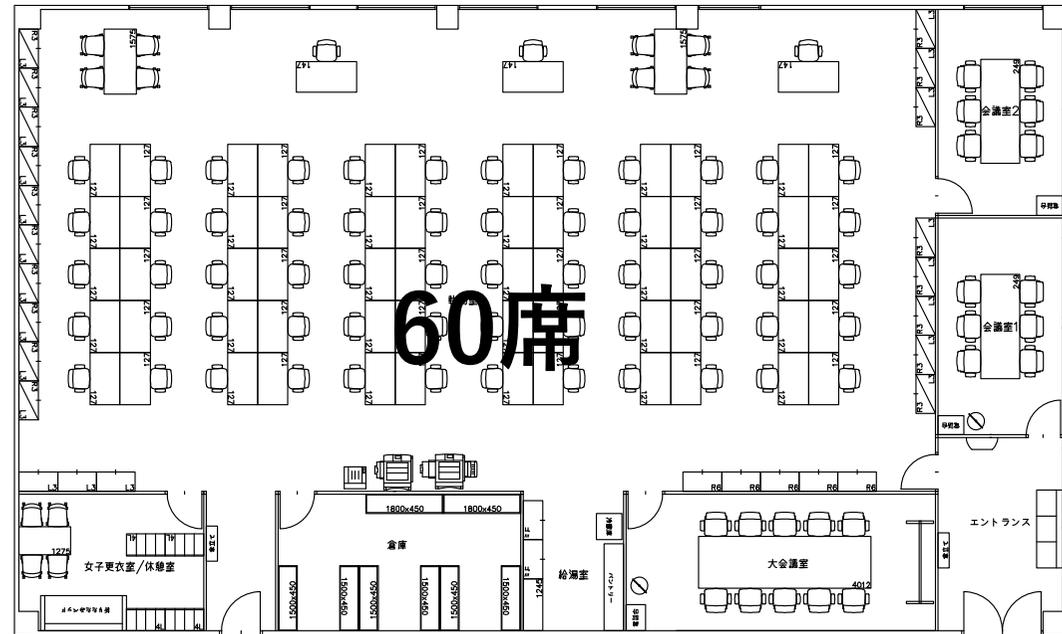
現状のオフィスを縮小するが
ワークモードを取入れることでオフィ
スのエンゲージメント向上させるプ
ラン

Type Check

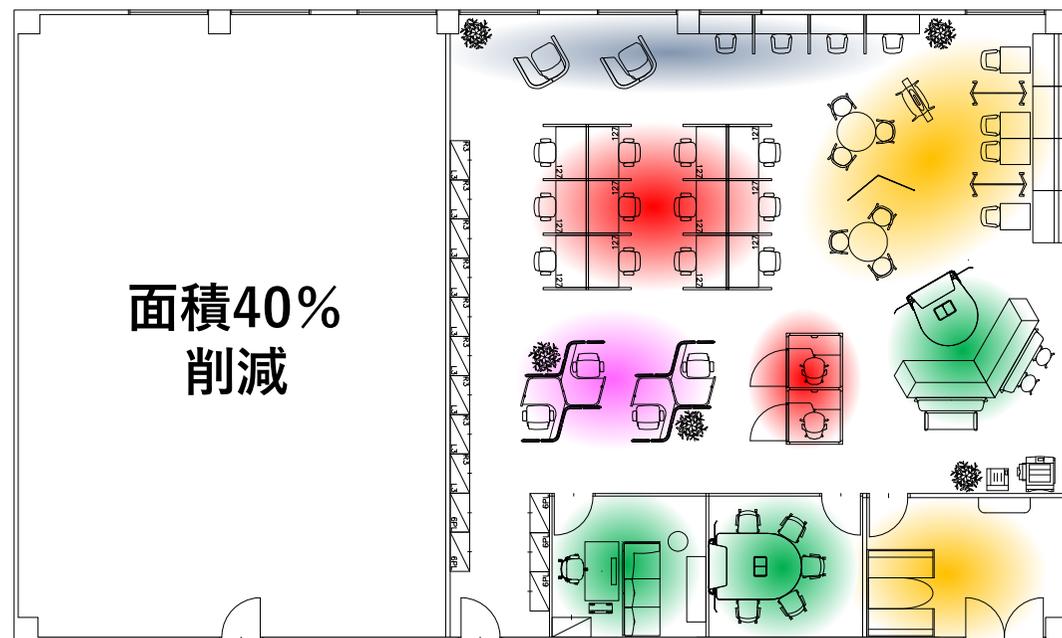
- 既存の働き方を変え仕事の効率を上げたい。
- オフィスに来る意味を持った機能を備えたい。
- コストを抑えたい。
- 出社率は現状の50%程度

- ・面積：345㎡→203㎡
- ・ワークポイント：63→38

-  執務・集中
-  コラボレーション
-  社交・交流
-  学び
-  エネルギーチャージ



■ Before

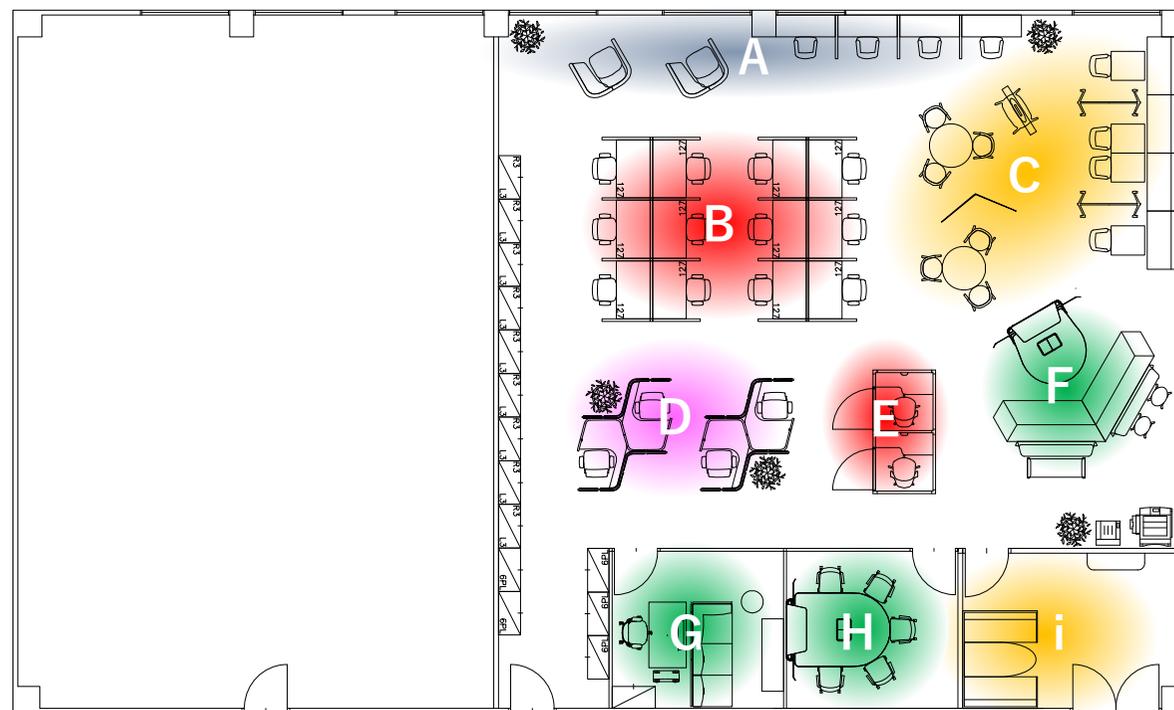


■ After

Solution

現状のオフィスを縮小するが
ワークモードを取入れることでオフィスのエンゲージメント向上させるプラン

- ①WEBを利用したミーティングをしたい
- ②WEBセミナーの発信をしたい
- ③集中して仕事をしたい
- ④チームで集まりたい
- ⑤リラックスしたい
- ⑥情報をインプットしたい
- ⑦気軽にプレストがしたい
- ⑧短時間でのミーティングが気軽にしたい



■After

A フォーカス&リラックススペース

- リラックスしながら快適に集中が出来ます。
- 窓面（景色）に向かったブース席で日常のから解放されエネルギーチャージが可能

B バックワークスペース

- 飛沫防止スクリーンとソーシャルディスタンスで感染防止を考慮しながらバックオフィスとして効率の良い業務を行います。

C ソサエティスペース

- オープンスペースで人が人を呼ぶ交流循環環境がインフォーマルコミュニケーションで新しいアイディアの創出に繋がります。
- スクリーンで仕切る事で個の集中も促します。

D コンセントレーションスペース

- 囲われた空間では周りを気にせずWebセミナーなどへの参加し新たな情報や知識の吸収に集中できます。

E プライベートブーススペース

- ブースにする事で周りへ、また周りからの騒音をシャットアウトしWEB会議で遠方とのコラボレーションが可能となります。

F テクノロジーコラボレーションスペース

- テクノロジーが人と情報を繋ぎ組織内に分散する情報を全体で共有できます。
- ラウンジ型で少人数のミーティングをサポートし、リラックスした雰囲気のコラボレーションが意思疎通を促進します。

G クリエイティブスペース

- 毎日会わないチームメンバーが集う時に効率の良いコラボレーションをし、信頼関係を築き共創が可能です。
- 視覚化やアイデアを共有でき創造性を育てられます。

H デジタルダイバシティスペース

- デジタル情報に平等にアクセスし双方向の多様なコラボレーションが可能です。

I ウェルカムスペース

- 社内、社外問わず対面する事で、相手の表情が分かり複数人での同時コミュニケーションが取れます。

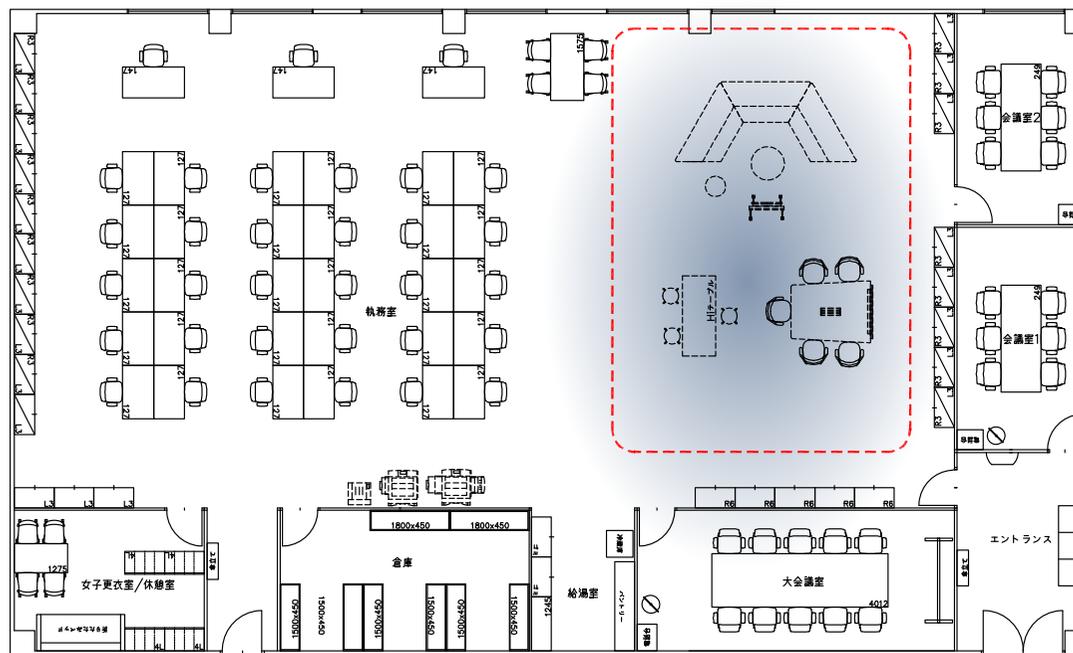
3. コラボスペースを予定していたエリアを執務スペースに・・・ ソーシャルディスタンスを取りながら現状人員を確保する

Problem

コロナ禍でコラボスペースを予定していた場所を執務スペースとして利用し、社員の安全を図る。

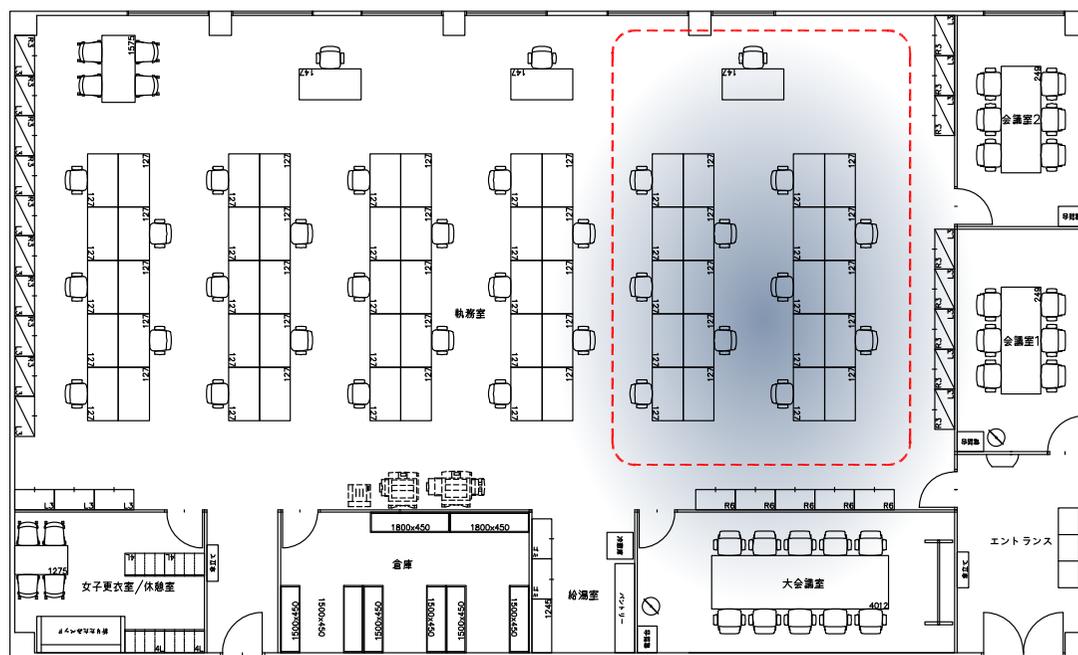
現状の社員数を減らすことが困難な為
コラボや出張者席として利用しようとして
いたエリアを執務スペースに。
社員の安全確保のために現状可能な対策を
講じた。

- ・面積：345㎡
- ・ワークポイント：33



■ Before

※部署再編で空いたスペースを社員のコミュニケーションの場としてコラボスペースになる予定だった場所を



■ Before

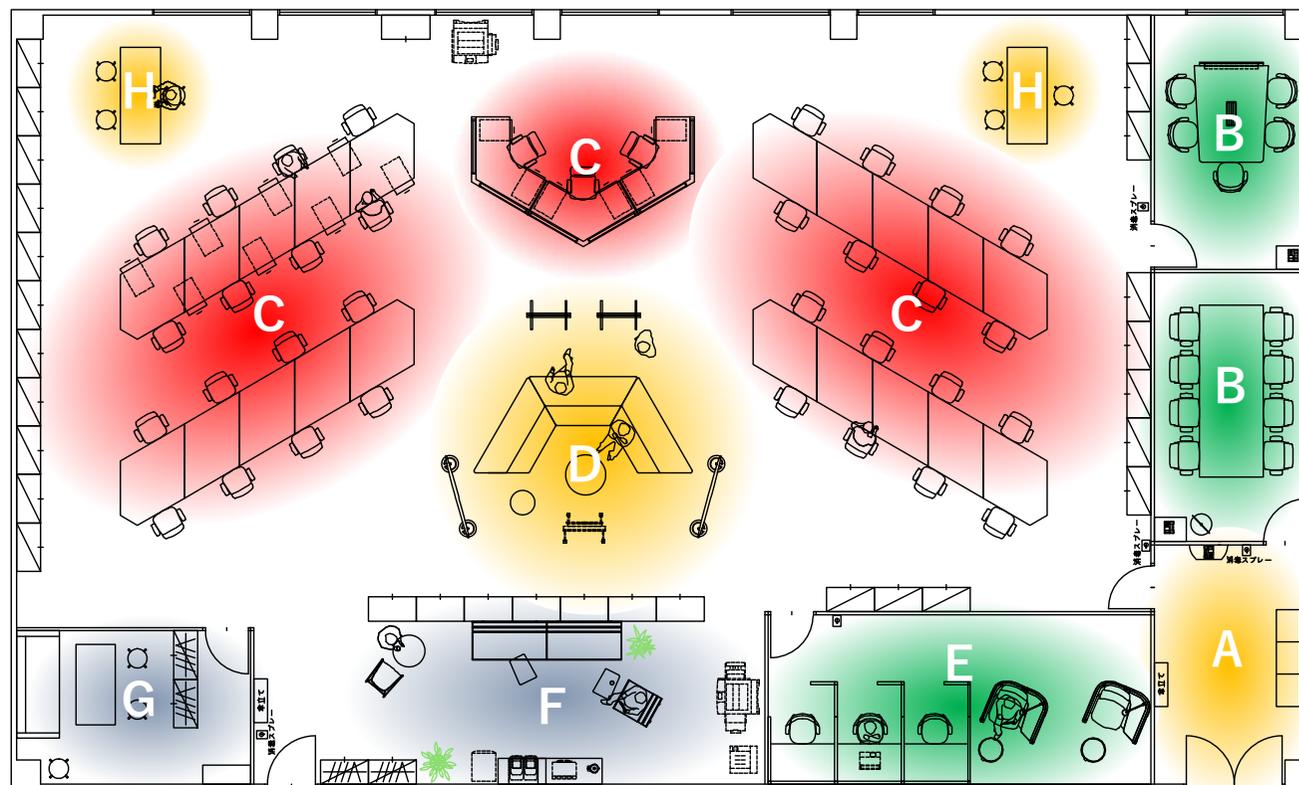
※コロナ禍でディスタンスを図る為にデスクを1個飛ばしに社員を配置したのでスペースがなくなってしまった。

Solution

現状の人員を確保しつつ社員の安全に配慮したプラン

- ①現状の社員数を減らすことが困難な場合いかにして社員の安全を確保しつつ業務を行えるか。
- ②また、ワークスタイルの変化にも対応したエリアを増設することも必要です。

- ・面積：345㎡→345㎡
- ・ワークポイント：33→35



A エントランス

- 現状のエントランスをそのまま使用することで余分なコストを削減します。
- 社内への外部の人の出入りを制限する意味においても重要です。

B 応接兼会議室

- 社内と切り離れたエントランス直結の会議室は来客用の応接を兼務。コロナ禍での対面での打ち合わせの場として利用。
- 社内での会議を密にしない為にもサブ会議室としても利用する。
- 社内会議室はTV会議やWEBミーティングなどにも応用可能。必要最小人数を想定。

C 執務エリア

- 固定席とフリーアドレス席を併用。今後の在宅ワークを見据えての試験エリアとしても使用可能。
- 変形デスクで対面になりがちな固定席をずらし、正面に人が座らないようにします。
- また、役職席なども形にとらわれずなおかつ社員の動向も把握できる配置とし、デスクパネルなどで飛沫感染リスクを低減します。
- 執務内入口エリア、会議室入口などに消毒スプレースポットを配置。

D ソサエティスペース

- 場所が人を呼び、人が人を呼ぶ交流循環環境です。
- オープンスペースでインフォーマルコミュニケーションで新しいアイデアの創出に繋がります。

- 遮音パネルやホワイトボードパネルなどを使用することで視線を遮ったり騒音の漏れも対策。他の業務者に配慮します。

E コンセントレーションスペース

- 囲われた空間では周りを気にせず新たな情報や知識の吸収に集中できます。
- 既存の大会議室をそのまま使用する事で防音効果も得られコストダウンにもつながります。
- 周囲を気にせずWebセミナーやZOOM会議などへの参加ができます。

F カフェ&ユーティリティスペース

- 休憩や活力補給にはリビングの様な落ち着いた空間が求められます。
- 他の部署との意見交換の場としての役割も。
- ユーティリティも兼ねてさらなる交流の場としての活用も。

G 女子更衣室

- 後々は救護スペースとして活用。

H ミーティングエリア

- 立位スタイルで短時間で軽い打ち合わせや、コラボレーションにも。
- 自席エリア以外でのワークエリアとしても。座位姿勢の改善にも立位姿勢でのワークスタイルは最適です。

4.サブヘッドオフィスのサテライト

メインオフィスと同じ機能を持つプラン

①同じ機能を組み込み業務効率アップ

メインオフィスと同等のオフィス機能を組み込むことでメインオフィスまで行かなくてもサテライトオフィスでの作業が可能になります。メインオフィスまでの移動時間を短縮することができ、サテライトオフィスでの生産性を図ります。

②コラボレーションの場を設置

コミュニケーション不足にならないようにコラボレーションの場を設けます。メインオフィスで接点のなかった人との会話も生まれ新たなアイデアを創出します。

③ワークモードの選択が可能

仕事内容や気分によってワークモードを選ぶことができるように様々な家具を配置しています。

- ・面積：304㎡
- ・ワークポイント：40

A フォーカス&リラクスペース

- リラックスしながら身体と脳を支えて隠れ家的で快適な集中が出来ます。
- 斜め天板にすることで、自然と正面に座らないような仕掛けができます。
- 個室の中ではデバイスから離れることで、エネルギーの回復につながります。

B コンセントレーションスペース

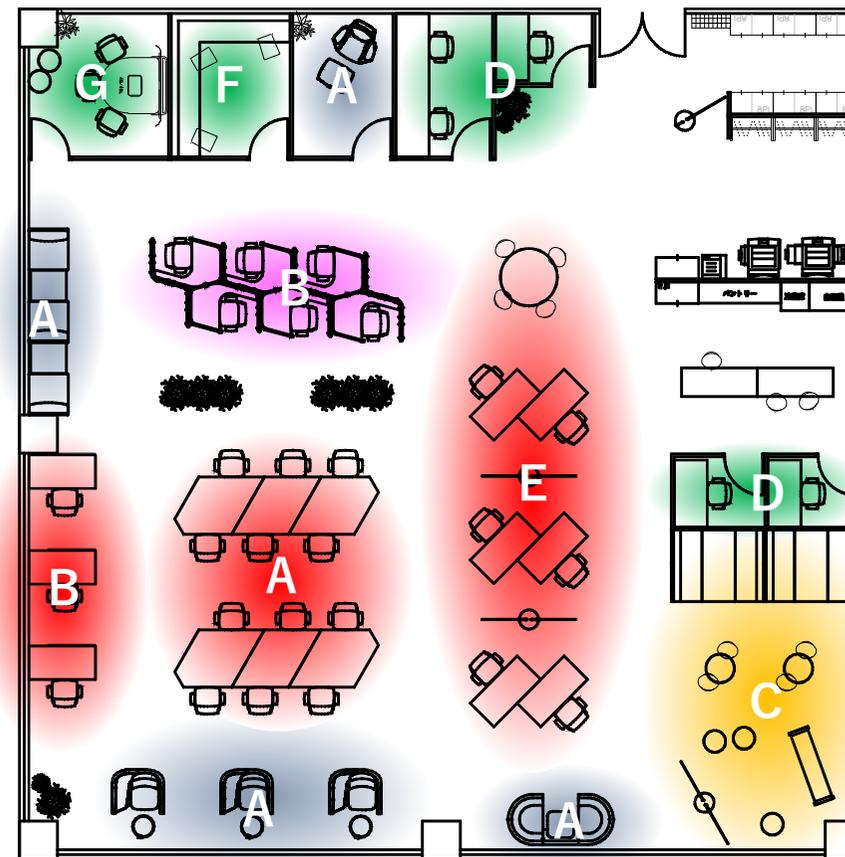
- 囲われた空間では周りを気にせず新たな情報や知識の吸収に集中できます。
- 周囲を気にせずWebセミナーなどへの参加できます。

C ソサエティスペース

- 場所が人を呼び、人が人を呼ぶ交流循環環境です。
- オープンスペースでインフォーマルコミュニケーションで新しいアイデアの創出に繋がります。
- 長居しないように腰掛けイスを置くことで、短時間ミーティングを促します。

D プライベートブーススペース

- メインオフィス等とのコラボレーションが可能となり、より効率的な働き方が実現されます。
- 個室にする事で周りへ、また周りからの騒音をシャットアウトしWEB会議に集中できます。
- 同時にオフィスの在席率を下げ密の回避にもなります。



E コネクトスペース

- 動線に配置されたハイテーブルでは偶然出会ったワーカー同士のコラボレーションにより新たなアイデアを生み出します。
- キャスター付テーブルを付けたり離したり、組合せ次第で集中やコラボレーション等、様々なシーンに対応します。

F クリエイティブスペース

- スピーディーな視覚化やアイデアを共有でき創造性を育てられます。また、肩を並べながらの信頼関係を築き共創が可能です。
- ソファタイプはリラックスした状態で会話ができ、意見が出しやすいため、新たな発見を生み出す可能性があります。

G デジタルダイバシティスペース

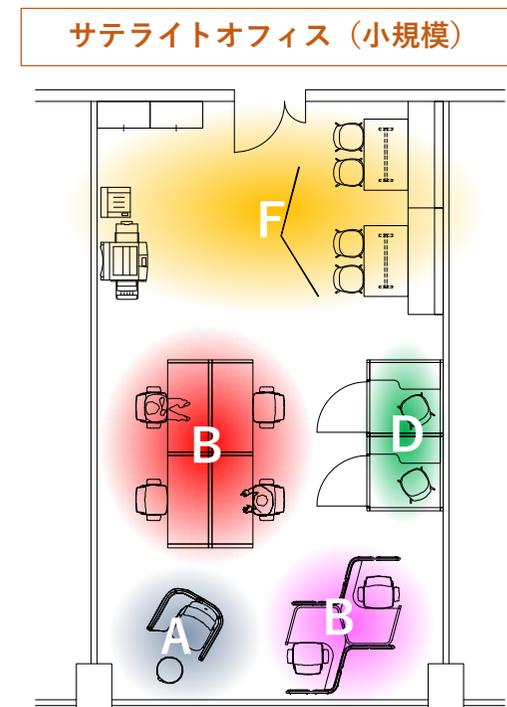
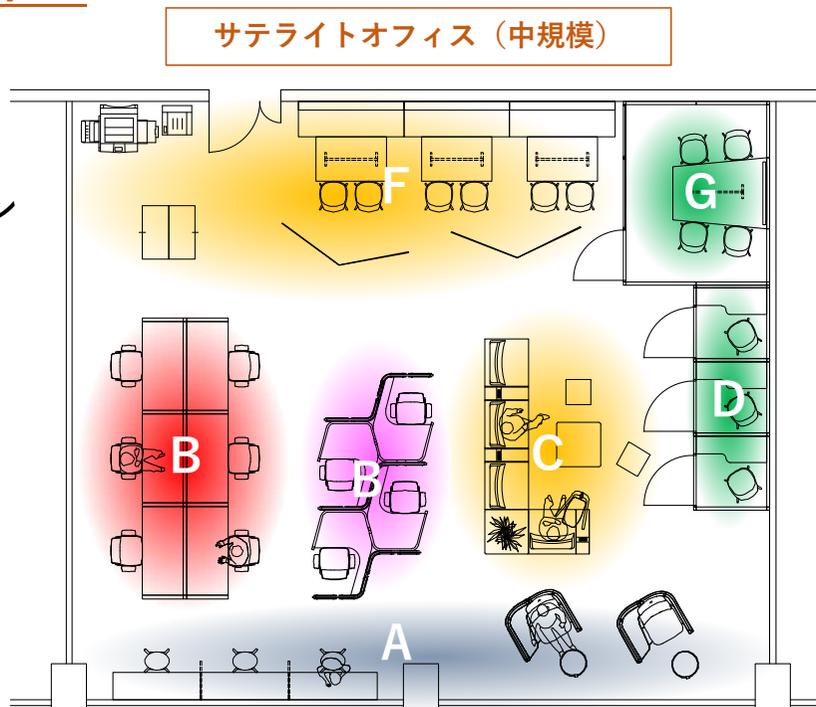
- デジタル情報に平等にアクセスし双方向の多様なコラボレーションが可能で、ビジネス目標の達成に貢献できます。
- メインオフィスとのWeb会議にも適しています。

5.遠隔地サテライトオフィス

郊外や交通結節点の 中・小規模サテライトオフィスのプラン

- ①主に1人作業のためのスペースと、
他拠点とのコラボレーションのための
個室ブース・Web会議スペースを配置
- ②メインオフィスと変わらない業務効率を
サポートします。

- ・面積（中規模）120㎡
（小規模）60㎡
- ・ワークポイント（中規模）18
（小規模）9



A フォーカス&リラックススペース

- リラックスしながら身体と脳を支えて隠れ家的で快適な集中が出来ます。
- 窓面（景色）に向かったブース席で集中と日常のマナー化から解放されエネルギーチャージをしながらのワークが可能

B コンセントレーションスペース

- 囲われた空間では周りを気にせず新たな情報や知識の吸収に集中できます。
- 周囲を気にせずWebセミナーなどへの参加できます。

C ソサエティスペース（中規模のみ）

- 場所が人を呼び、人が人を呼ぶ交流循環環境です。
- オープンスペースでインフォーマルコミュニケーションで新しいアイデアの創出に繋がります。
- 長居しないように腰掛けイスを置くことで、短時間ミーティングを促します。

D プライベートブーススペース

- メインオフィス等とのコラボレーションが可能となり、より効率的な働き方が実現されます。
- 個室にする事で周りへ、また周りからの騒音をシャットアウトしWEB会議に集中できます。
- 同時にオフィスの在席率を下げ密の回避にもなります。

E コネクトスペース

- 動線に配置されたハイテーブルでは偶然出会ったワーカー同士のコラボレーションにより新たなアイデアを生み出します。
- キャスター付テーブルを付けたり離したり、組合せ次第で集中やコラボレーション等、様々なシーンに対応します。

F カフェ&ユーティリティスペース

- 休憩や活力補給にはリビングの様な落ち着いた空間が求められます。
- 他部署のワーカーとの意見交換の場としての役割も。
- ユーティリティも兼ねてさらなる交流の場としての活用も。

G デジタルダイバシティスペース（中規模のみ）

- デジタル情報に平等にアクセスし双方向の多様なコラボレーションが可能で、ビジネス目標の達成に貢献できます。
- メインオフィスとのWeb会議にも適しています。



商品に関するお問い合わせは各営業所まで
お願いします。

株式会社くろがね工作所
www.kurogane-kks.co.jp

東 京 〒105-0014 東京都港区芝1-10-13 芝日景有楽ビル
TEL. 03-5439-9111 / FAX. 03-5439-9115

札 幌 〒060-0001 札幌市中央区北一条西7丁目3 (北一条第一生命ビルディング)
TEL. 011-281-2373 / FAX. 011-281-2367

名古屋 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦3丁目20-27 (御幸ビル)
TEL. 052-253-6985 / FAX. 052-253-6986

大 阪 〒550-0013 大阪市西区新町1丁目4-24 (大阪四ツ橋新町ビル)
TEL. 06-6538-1012 / FAX. 06-6538-7434

山 口 〒753-0074 山口市中央5-15-20 (オデオンK)
TEL. 083-928-6115 / FAX. 083-928-6108

福 岡 〒810-0012 福岡市中央区白金1丁目2-21 (Wビルディング渡辺通)
TEL. 092-523-1440 / FAX. 092-523-1442